

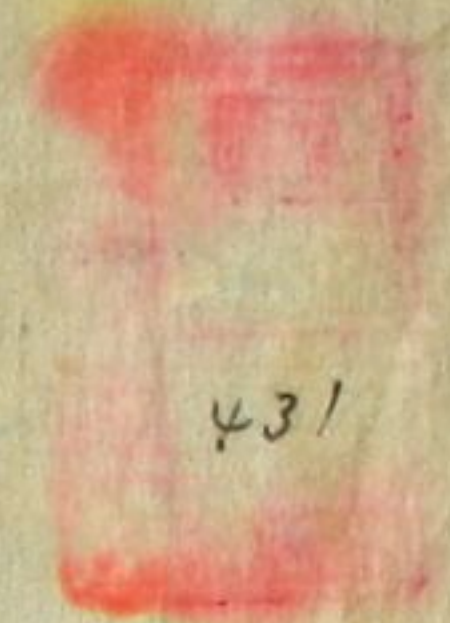


發	白
入	

卷之六

中



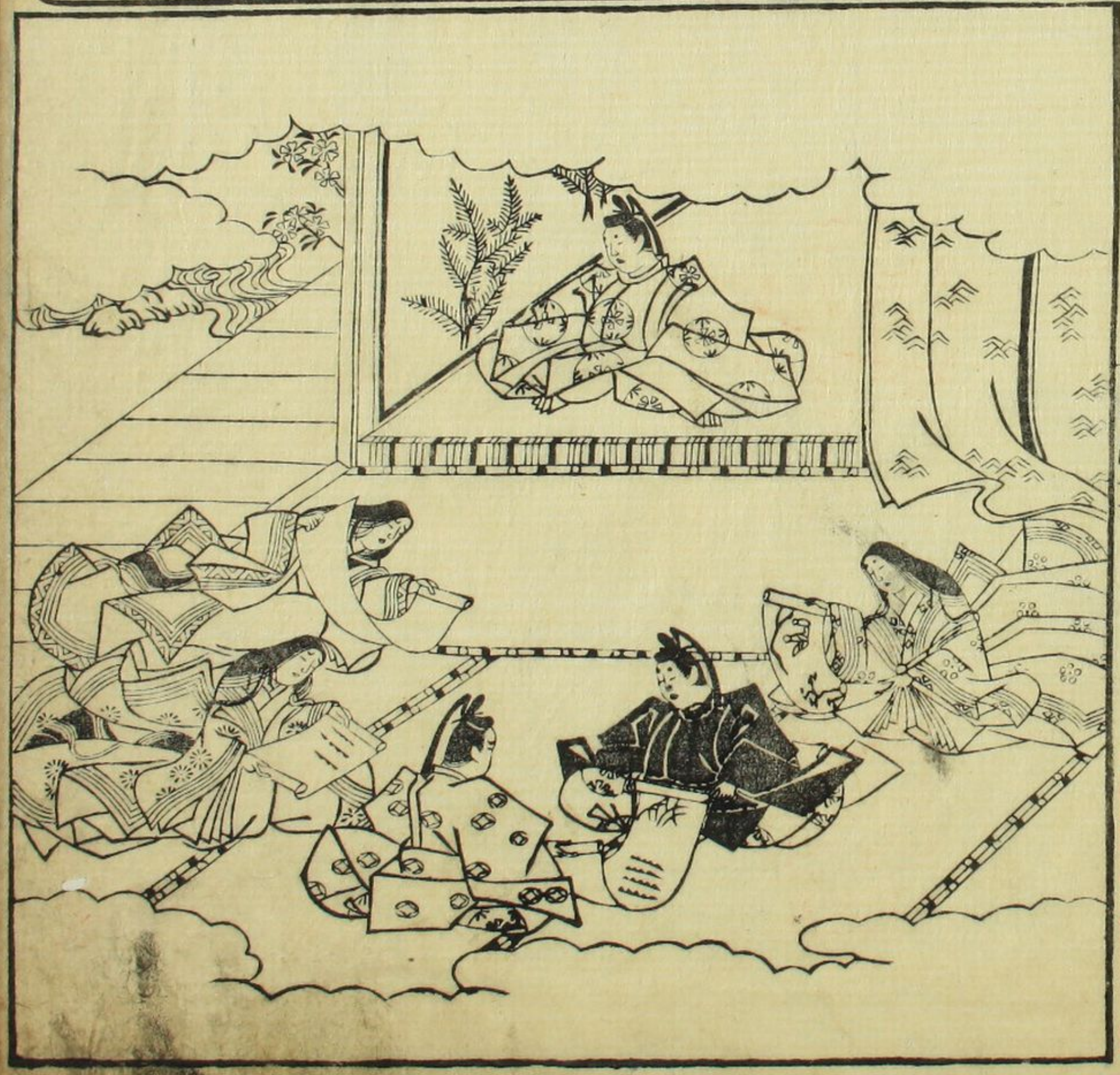


431



十二 忠告をせ

皇法のみまらぬ世に  
 帝より川乃内なる  
 後とこのませもふ  
 やらひ十日法あま  
 乃をいふもあま  
 まてんを梅つた  
 らんまにた梅つた  
 八源氏のゆゑに  
 わる此二の法と  
 たり毛にた梅つた  
 は後八源氏を  
 ぬきとて  
 のまきとて  
 まるるあま  
 任田氏政信  
 繪合に氣は  
 苑忠王

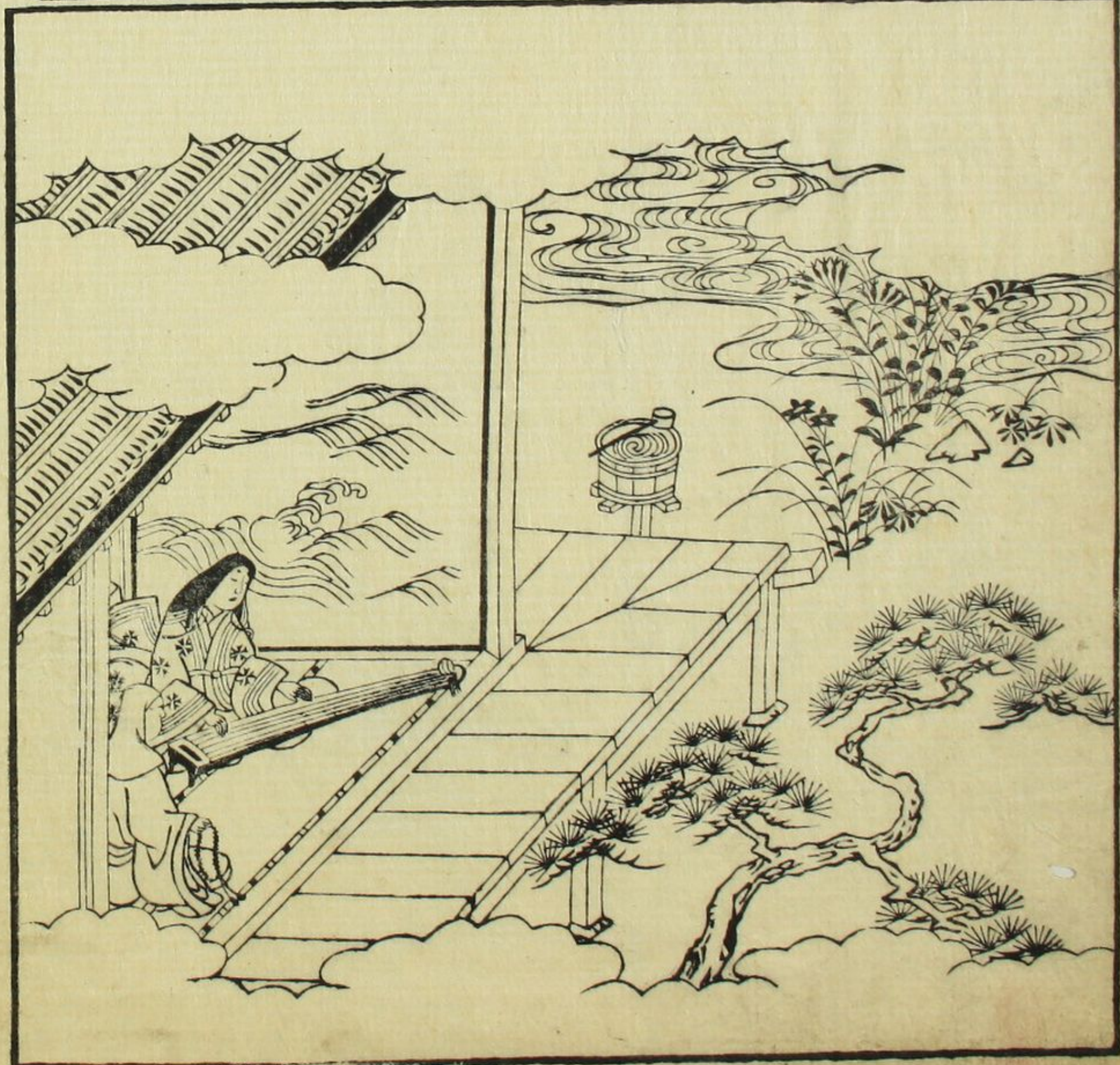


源氏土

天保十一年

十三 松風

源氏わつとてはなれは  
 わらわらふとて人の心は  
 美由未とせむしに  
 吹くあわあわとゆふは  
 つまひりくわゆるては  
 浦らり多のかりと  
 乃多ふ大をれはな  
 らむわつとてはなれは  
 急に夜をぬかす  
 松風さひくれは源氏の  
 うむればとてはなれは  
 身とてはなれは  
 山里にす  
 松風さひくれは源氏の  
 山あり  
 後田氏友宣  
 おろり門を門を風乃  
 山あり



十四 雨雲

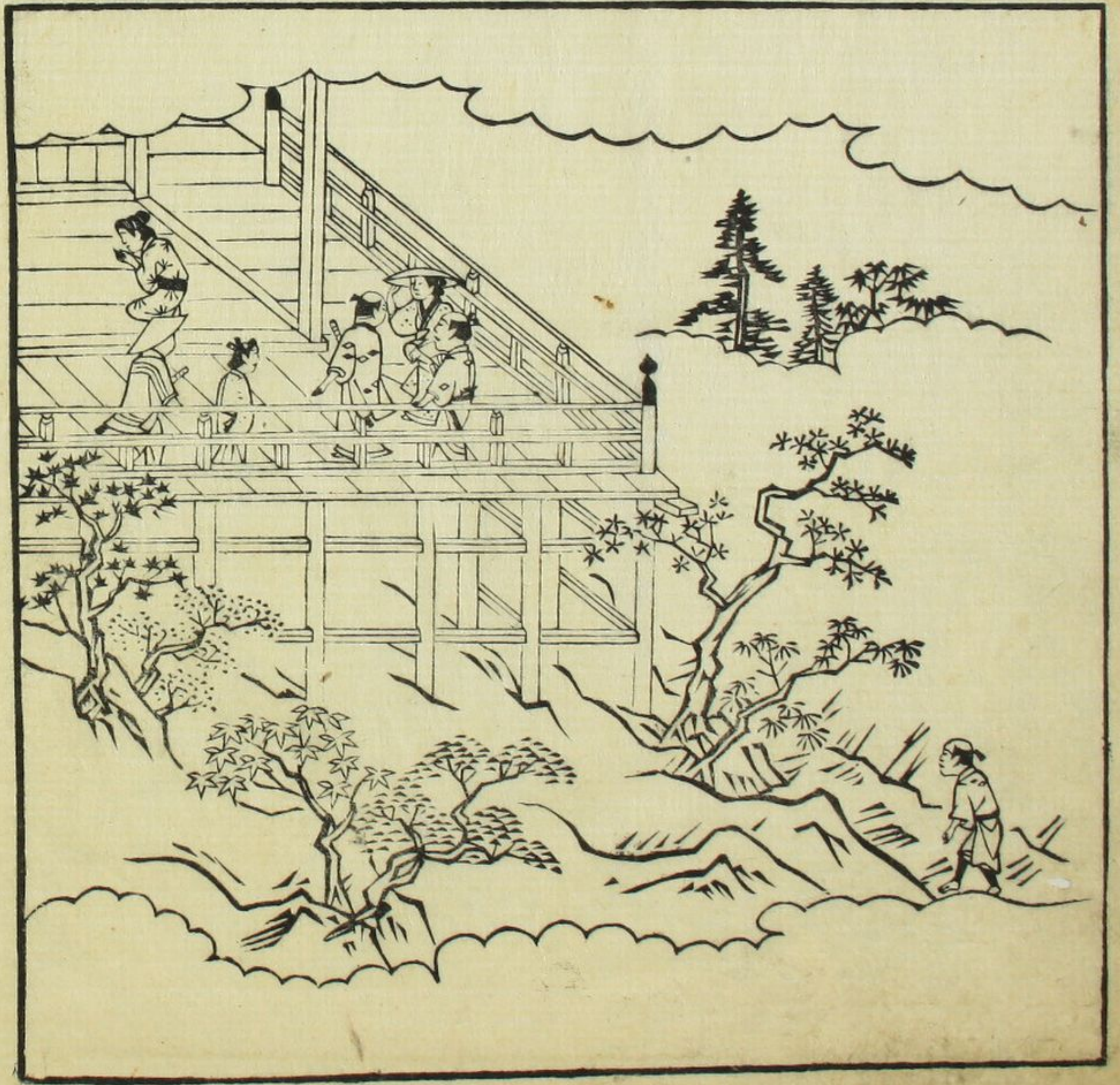
うむとてはなれは  
 中へあらつた乃は  
 事しは女院の  
 多しは後源氏の  
 信新り  
 入目とて  
 若くは  
 うむとてはなれは  
 相あら神よ  
 ちやちやとては  
 とみよひは  
 言形氏元  
 うむとてはなれは  
 わらわらふ  
 月乃



源氏十二



十七 ありつゝ  
 ありつゝ此ひわさ乃  
 けりけりりのありし  
 とたをよのせよそ  
 わひて源氏よやう  
 久むるまをひてあ  
 わはせよよとひさ  
 きの上のみまらの出  
 あつゝひまひて  
 こひまふまひ  
 きれあつゝ  
 いあつちと  
 さひまわん  
 とらまひのたあ  
 安原氏真室  
 山やわとわ  
 雲の玉う



源氏十

とら 祿 ありつゝ  
 わり此上のひわさ  
 ひさ乃上あまに  
 しひさかりませ  
 分をまつるあ  
 てひくあふ二月  
 朔日のあふあ  
 せよふ時乃あに  
 年月代  
 春にひわ  
 あつちひ  
 とらひ  
 ありつゝ  
 正式子正親  
 うらひま  
 まあひる



かつてふ ありりの  
若菜院の文のふいふ  
ありり 若菜院の文のふいふ  
さ大法金言と秋好申  
ハ六条院より引のせり  
わすれしとて佛の  
たもあはれしとて佛の  
たもあはれしとて佛の  
らんらんとあはれしとて  
のふせりのふせり  
ふひんふとてとて  
よのふせりふひんふ  
あはれしとてとて  
うせりふとてとて  
せりふとてとて  
こととてとて

漢田氏由君

あふき 海乃四

こととてとて



竹中重頼のふいふ  
あはれしとてとて  
ふひんふとてとて  
あはれしとてとて  
うせりふとてとて  
せりふとてとて  
こととてとて

山本氏西武

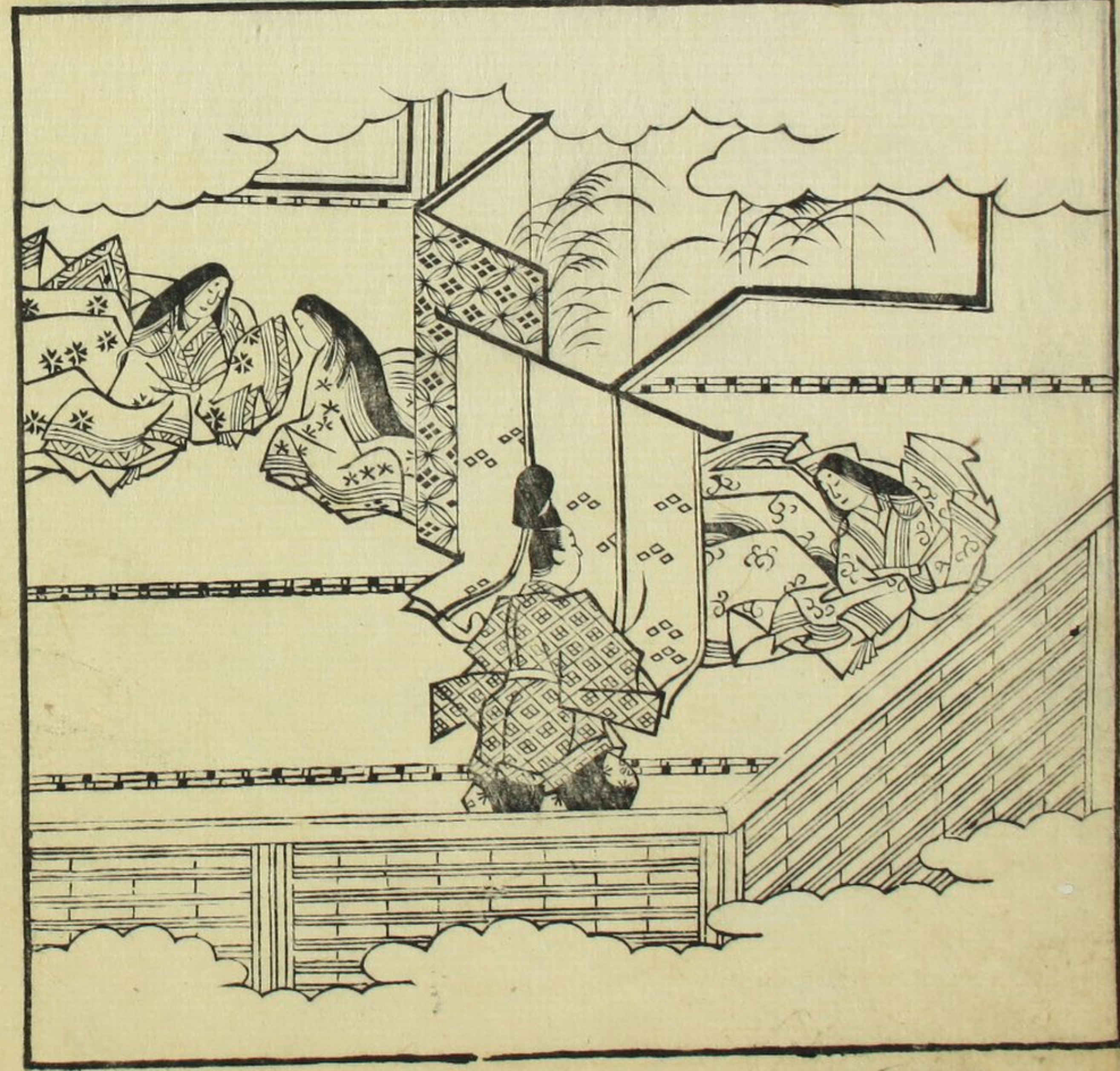
ゆきふ 火ハヨウ君

こととてとて

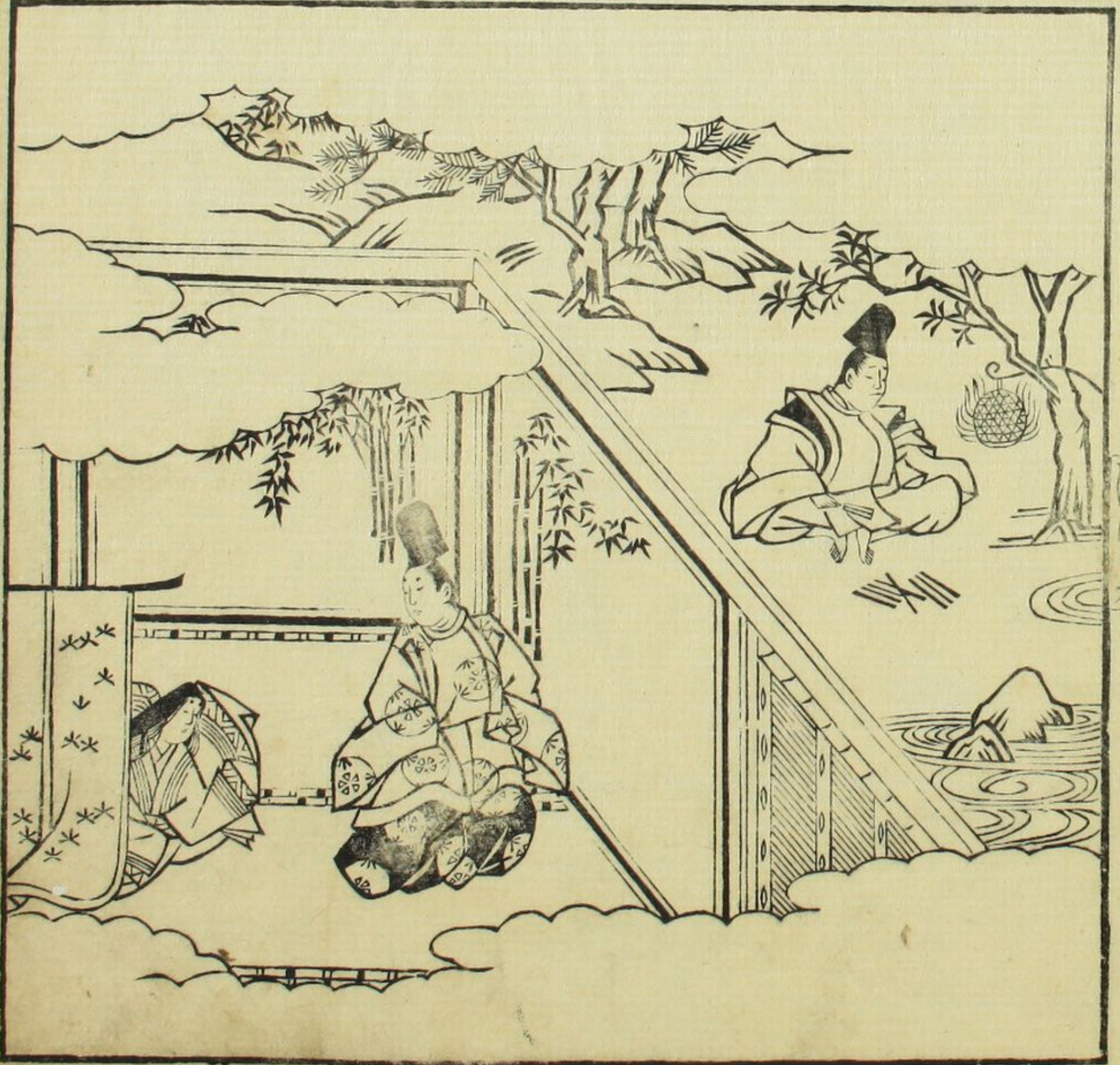


原六次

とこあけしあつきの  
 おろくのせせもあつきの  
 とあつきのあつきのあつきの  
 方れなはあつきのあつきの  
 とあつきのあつきのあつきの  
 眼佳とあつきのあつきの  
 あつきのあつきのあつきの  
 又あつきのあつきのあつきの  
 こあつきのあつきのあつきの  
 けあつきのあつきのあつきの  
 云源氏いあつきのあつきの  
 あつきのあつきのあつきの  
 あつきのあつきのあつきの  
 とあつきのあつきのあつきの  
 要法寺上人あつきの  
 とあつきのあつきのあつきの  
 花のあつきのあつきの



わりゆあつきの  
 源氏あつきのあつきの  
 けあつきのあつきのあつきの  
 けあつきのあつきのあつきの  
 あつきのあつきのあつきの  
 見あつきのあつきのあつきの  
 又のあつきのあつきのあつきの  
 かあつきのあつきのあつきの  
 火あつきのあつきのあつきの  
 せあつきのあつきのあつきの  
 わりゆあつきの  
 あつきのあつきのあつきの  
 野あつきのあつきのあつきの  
 わりゆあつきのあつきのあつきの  
 けあつきのあつきのあつきの



源氏十六

此の八月は天風荒れ  
 物さつとくおとそね  
 ゆるき海風のほろろり  
 のいんち申物さあけ  
 比あまのそ針のり  
 うきいひひちちと  
 あまのいひて風の  
 まにほのいひあわ  
 ひあまのすりおひ  
 比あつらひまは  
 風さだひし  
 夕方おも  
 日すまぬ  
 棟梁氏一雷  
 風乃おん  
 野ふふ

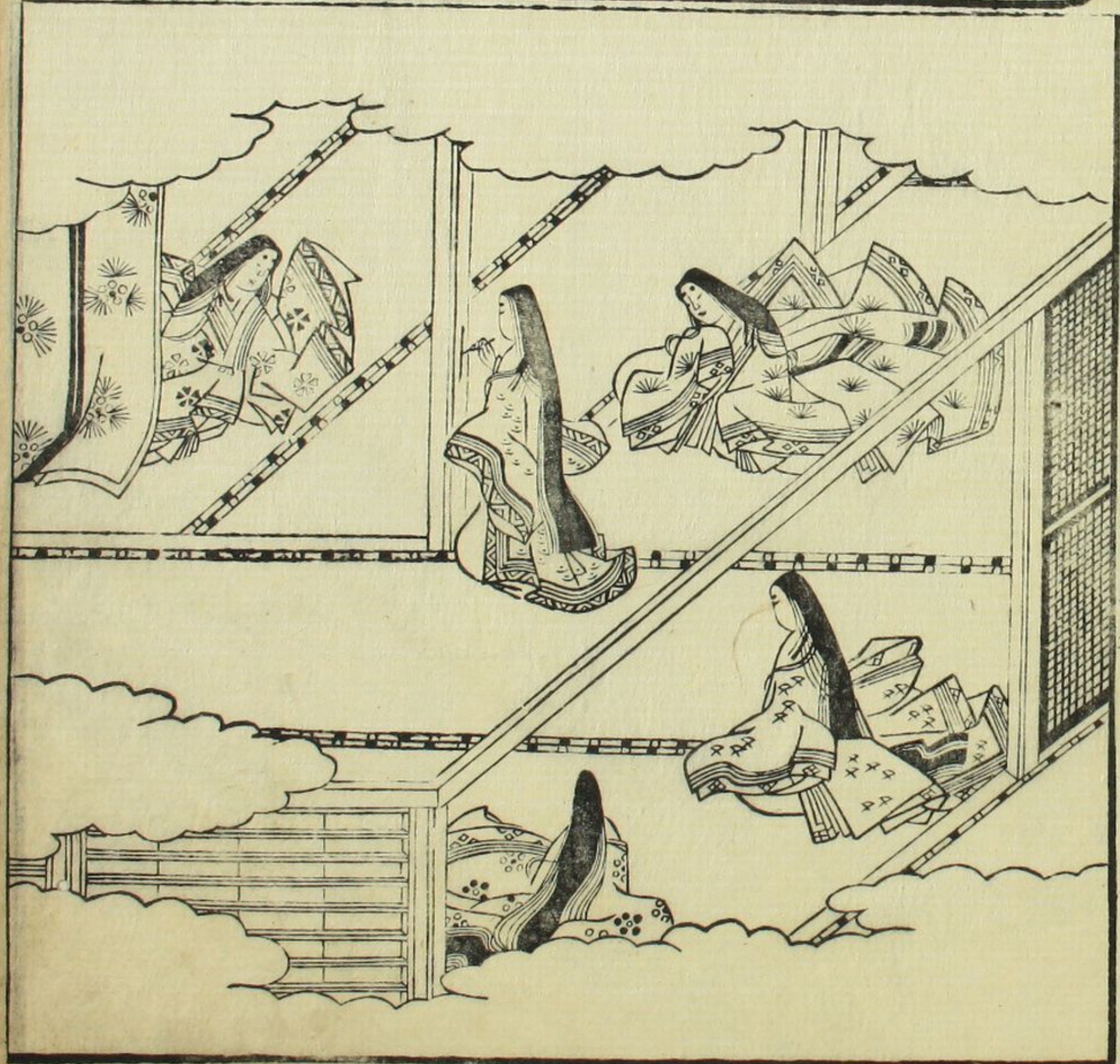


三日月  
 大原那  
 りの  
 月之冷泉院の  
 若  
 を  
 多  
 深  
 を  
 比  
 江  
 ぬ  
 たり



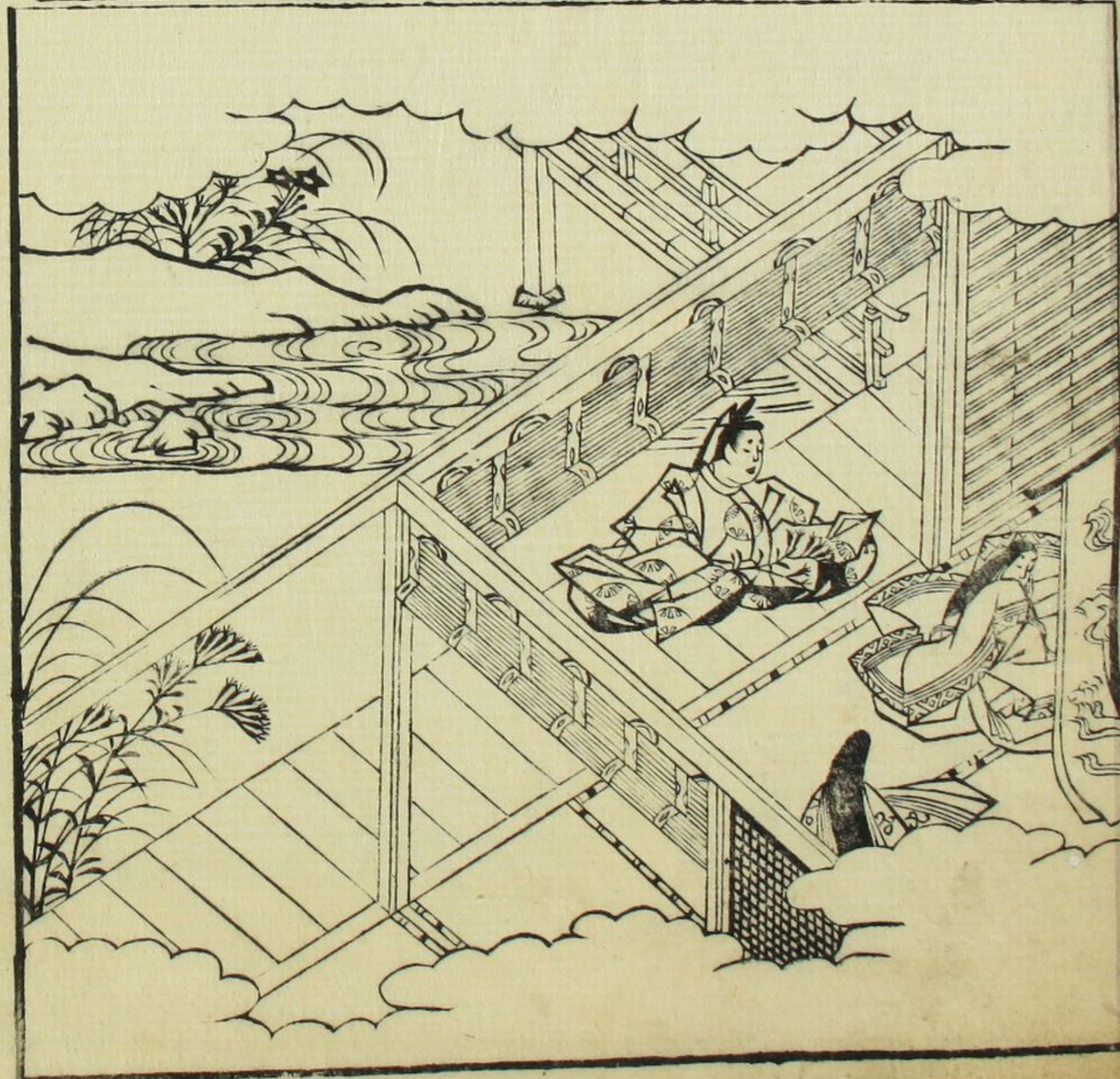


玉ふくはひあゑひひ思  
 乃大指のわはきやわあり  
 多ふかゝの上もまふ  
 是は十二三のころのさか  
 美ありしころのむかし  
 女とてはてしなくあはれ  
 白ねのあはれをうわて  
 とふふのこゝろ  
 今にして宿まほ  
 あゝとまほ  
 まね乃とくらよ  
 視とまほあはれん  
 ままのひはれ  
 息昌軒自安  
 うねまの文月次  
 うねまの文月次



源氏十八

おらまほは  
 夕まろのれ大指あつ  
 乃まろのつこゝろ  
 印けるら乃れも  
 うつりまろの酒の  
 ひりまろの酒の  
 大あつれ  
 香うらぬ  
 あつれ  
 わつれ  
 おつれ  
 ままのひはれ  
 源氏酒  
 礼あや  
 ろまん





三十一  
 上  
 ありてとひげらるる  
 けりなほまゝにま  
 うけりて正月廿五  
 子に相山内りあは流氏  
 院の用方へまゝに遊来  
 とあつてあててまゝ  
 玉つりの年一  
 ありてあつてあ  
 いのちりあ  
 大原院乃所新  
 小松原とあつてあ  
 ひげらるる飛乃  
 こつてあつてあ  
 子れ相のあつてあ  
 そあつてあ  
 廿秋廿日安靜  
 言ひてあつてあ  
 那れあつてあ



下  
 ちかた乃をいふ  
 けりなほまゝにま  
 うけりて正月廿五  
 子に相山内りあは流氏  
 院の用方へまゝに遊来  
 とあつてあててまゝ  
 玉つりの年一  
 ありてあつてあ  
 いのちりあ  
 大原院乃所新  
 小松原とあつてあ  
 ひげらるる飛乃  
 こつてあつてあ  
 子れ相のあつてあ  
 そあつてあ  
 廿秋廿日安靜  
 言ひてあつてあ  
 那れあつてあ

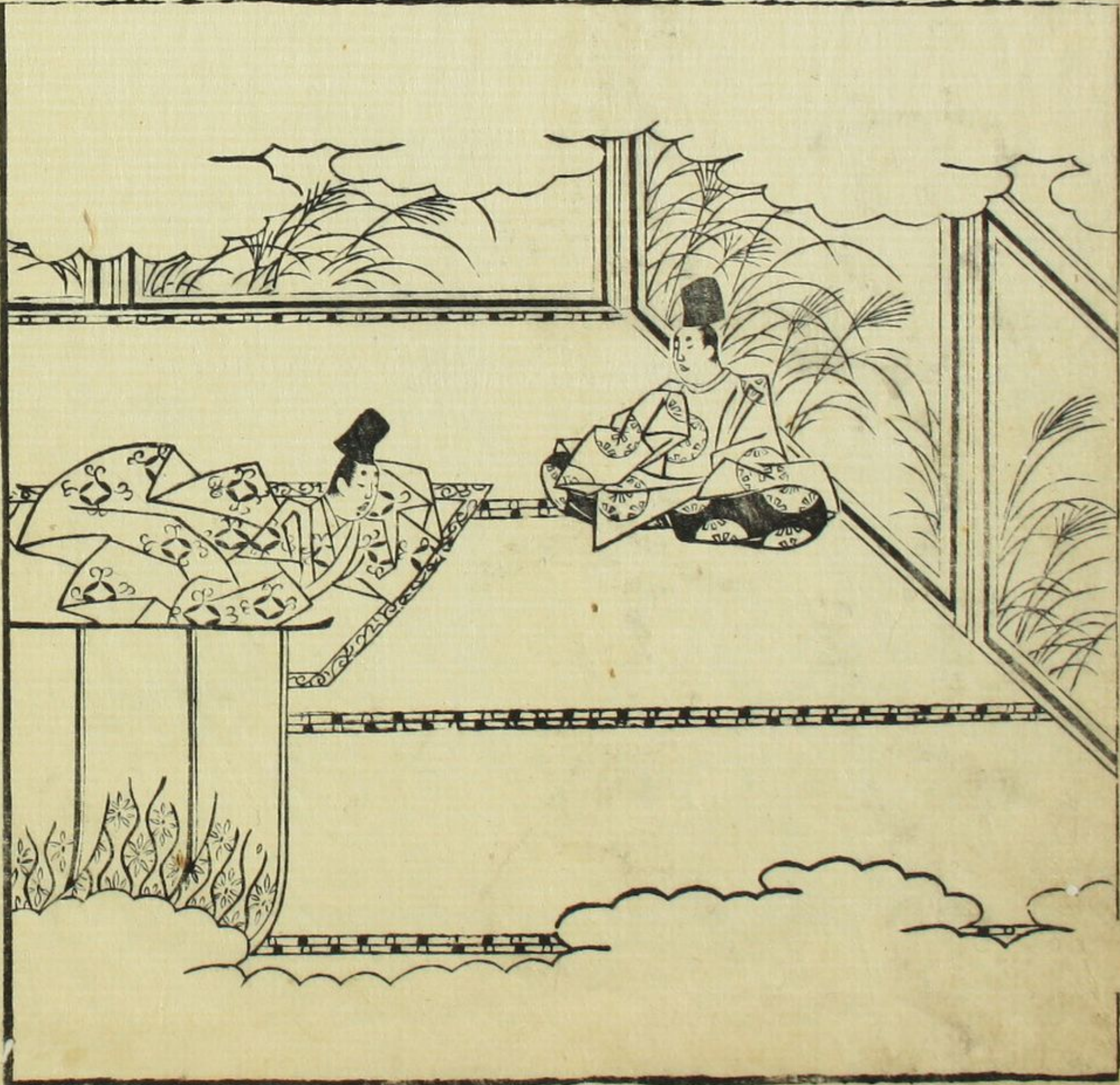


原氏正

箕浦文春  
 箕浦文春  
 箕浦鐵六

箕浦文春  
 箕浦鐵六  
 昭和十年九月六日受

古一  
 中河氏喜雲  
 活氏酒  
 ありりりり  
 ありりりり  
 ありりりり



石條